

文化

私の収穫

壯者凌ぐ老学究

評論家 渡辺京二

5

いわれる谷川四兄弟のうち、健一、雁、公慶の三かたは早くから存じあげてきたが、3番目の道雄氏とはなかなか縁がなくて、親しくして来た人外ならなかったから、また10年も経たな

い。『中国中世社会と共同体』。1970年刊だが、私が読んだのは、6年の

このころだ。藤田氏の著作は、中国には封建共同体はないというのが定説だと思っていた私は、道雄氏が説くように、封建共同体なる概念を再考せよとされた。

これは戦時中にも嫌なが、農民たちは封建性を指す者を知りたがり出した共同体であり、その共同体は、農家のものを律する論理の面をたよって植

保されていくのである。この新しい共同体の存在を、氏は文献の綿密な読み込みを通じて立証する。終戦直下、戦時体制が崩壊し、立ちあがった農家・農民の関係をどう捉えようとするか、戦時体制の手法からすれば、何となく見えてくる。しかし、このころは、自由で勇敢

農家の姿を思い出す。自由で勇敢

な説みがあった。道雄氏はその後、中国史学会で原の対立点が示され、一貫して読み解かれて来た。最近、土地を奪われた農民が土地を対して、法と暴力の画面に描かれる場面が目撃し、大勢の訳書も上げられてくる。84歳の老学究が壯者を凌ぐ現象を記されて

いるのだ。奮闘はあきらま